

「第11回国土技術開発賞」の報告

島野 知幸

技術・調達政策グループ
主任研究員



1. はじめに

「国土技術開発賞」は、建設分野における技術開発者に対する研究開発意欲の高揚と建設技術水準の向上を図ることを目的として、建設分野における優れた新技術及びその開発に貢献した技術者を対象に表彰する事業である。

本賞は、JICEが創立25周年である平成10年度に、旧建設省の後援のもと、「建設技術開発賞」と称して創設(平成11年度から表彰を開始)した。その後、平成13年1月の国土交通省発足を契機に、「国土技術開発賞」と改称するとともに、財団法人沿岸技術研究センター(CDIT)との共催で実施している。

なお、今回創設11回を迎えたことを機に、独自の建設技術の活用・応用を通じて、地域の課題解決に貢献した技術を対象に「地域貢献技術賞」を創設し、技術開発への支援強化を図ることとした。

2. 第11回国土技術開発賞の概要

2.1 実施主体

- (1) 主催 (財) 国土技術研究センター (JICE)
(財) 沿岸技術研究センター (CDIT)
- (2) 後援 國土交通省
- (3) 協賛 (財) 日本建設情報総合センター (JACIC)
(財) 先端建設技術センター (ACTEC)
(財) 港湾空港建設技術サービスセンター (SCOPE)

2.2 対象技術

住宅・社会資本整備もしくは国土管理に係わる、計画・設計手法、施工方法、維持管理手法、材料、機械などの広範に亘る技術で、概ね過去5年以内に技術開発され、かつ過去3年以内に実用に供された新技術とした。

2.3 応募資格

(1) 応募者

応募技術を中心となって開発した者（「個人^(※)」、「民間法人」、「行政機関等^(※※)」）

(※)：大学等の研究・教育機関に所属する学識経験者等

(※※)：国及び地方公共団体等、特殊法人、独立行政法人及び公益法人とそれらに付属する研究機関等の全ての機関

(2) 共同開発者

共同開発者は、応募技術の開発に関し、応募者とならぬまでも参画を行った者（個人、民間法人、行政機関等）

(3) 技術開発者

技術開発者は、応募技術の開発に“直接”かつ“中心”となって携わった者の内、“技術的に重要な役割”を担った担当者

2.4 募集期間

平成21年2月4日(水)から平成21年4月6日(月)

2.5 選考方法

選考は、第11回国土技術開発賞選考委員会を設置して実施した。選考委員会のメンバーは以下の通り。

委員長 中村英夫 (東京都市大学 学長)

委員 土岐憲三 (立命館大学 教授)

// 国土交通省 技監

// 同 大臣官房技術総括審議官

// 同 大臣官房技術審議官

// 同 国土技術政策総合研究所所長

// 同 国土地理院長

// (独) 土木研究所 理事長

// (独) 建築研究所 理事長

// (独) 港湾空港技術研究所 理事長

// JICE 理事長

// CDIT 理事長

選考は、応募者より提出された応募書類に基づき、「技術開発の効果」、「汎用性」、「独創性」の3つの視点を重視して行い、特に「技術開発の効果」は、工事コストの縮減、工期短縮のような「直接的効果」に加え、環境負荷の

低減、施工安全性の向上のような「間接的効果」に着目した。

地域貢献技術賞については、これら3つの視点に「地域への貢献」の視点を加えて総合的に評価した。

表-1 第11回国土技術開発賞 受賞技術一覧

(<http://www.jice.or.jp/kaihatsusho/index.html>に掲載)

賞	受賞技術名称	応募者名 〔共同開発者名〕	技術開発者名
最優秀賞 【2件】	鹿島カットアンドダウン工法	鹿島建設（株）	鹿島建設（株） 大塚繁充・小林実
	キーエレメント工法	五洋建設（株） 〔内閣府沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所〕、〔国交省近畿地方整備局 大阪港湾・空港整備事務所〕	五洋建設（株） 段塙隆雄・新明克洋 内閣府沖縄総合事務局 津田修一 近畿地方整備局 大山洋志
優秀賞 【2件】	鉄鋼スラグ水和固化体製人工石材（フロンティアストーン・フロンティアロック）・ブロック	新日本製鐵（株） JFEスチール（株） 東亜建設工業（株）	JFEスチール（株） 松永久宏・谷敷多穂 新日本製鐵（株） 高野良広・篠崎晴彦 東亜建設工業（株） 田口博文 九州大学大学院 濱田秀則
	台形CSGダム技術	（財）ダム技術センター （独）土木研究所	（財）ダム技術センター 藤澤侃彦・樋口淳美・吉田等 （株）アイ・エヌ・エー 鈴木孝雄 アイドールエンジニアリング（株） 柳澤得寿 （株）ドーコン 前田研治 山口大学 川崎秀明、（独）土木研究所 山口嘉一
入賞 【5件】	沿岸域における高精度波浪変形計算モデル“NOWT-PARI”	（独）港湾空港技術研究所	（独）港湾空港技術研究所 平山克也・平石哲也
	HSPC構造柱	大成建設（株）	大成建設（株） 服部敦志・山本佳城
	過熱蒸気を用いたダイオキシン類汚染土壤の浄化技術	大旺新洋（株） 〔西松建設（株）〕	大旺新洋（株） 金澤正澄・百代淳一
	KUMONOS	関西工事測量（株）	関西工事測量（株） 中庭和秀
	U桁リフティング架設工法	三井住友建設（株）	三井住友建設（株） 春日昭夫・益子博志
地域貢献 技術賞 【4件】	ワイドウォール工法	（株）カンケン	（株）カンケン 林利寿
	専用バケットを用いたホタテ貝中間育成施設のアンカーブロック撤去工法	（株）西村組	（株）西村組 吉田稔・川合邦広
	マルチスライド工法『スライドレール』	（株）オクト 〔山陽ブロック工業（株）〕、 〔（株）ネオジオ〕、〔（株）丸治コンクリート工業所〕	（株）オクト 奥田智一 （株）丸治コンクリート工業所 廣瀬貴
	連続画像作成技術「Mofix（ムーフィックス）」	（株）エマキ	（株）エマキ 後藤良平

2.6 選考結果

第11回国土技術開発賞では、民間企業等から32件の応募があった。その内容は工法、材料などのハード面の技術から、調査・計測などのソフト面の技術、さらにはハード面とソフト面を融合した技術など、建設分野全般に亘った。いずれの技術も技術開発者の意欲と創意工夫に満ちたものであった。

これらの応募技術の中から、第11回国土技術開発賞選考委員会の厳正かつ公正なる審議により、

最優秀賞	2件（国土交通大臣表彰）
優秀賞	2件（国土交通大臣表彰）
入賞	5件（選考委員会委員長表彰）
地域貢献技術賞	4件（国土交通大臣表彰）
の計	13件を表彰対象に決定した（表-1）。

2.7 第11回国土技術開発賞表彰式

表彰式は平成21年6月26日、また、今回創設した地域貢献技術賞については、7月23日に第4回建設トップランナーフォーラムの後に行った。

6月26日の表彰式では、金子恭之国土交通副大臣をはじめとする国土交通省の関係者の方々、並びに関係団体から多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、盛大かつ終始和やかな雰囲気で執り行われた（写真-1）。最優秀賞及び優秀賞については、金子副大臣より（写真-2、3）、入賞については、中村英夫選考委員会委員長より表彰状及び副賞を受賞技術を開発した法人代表者及び技術開発に携わった代表者（代表技術開発者）に対して、それぞれ直接授与された。

賞	応募者	技術開発者
最優秀賞	表彰状 副賞（盾）	表彰状 副賞（賞金50万円）
優秀賞	表彰状 副賞（盾）	表彰状 副賞（賞金20万円）
入賞	表彰状 副賞（盾）	表彰状
地域貢献技術賞	表彰状 副賞（盾）	表彰状 副賞（賞金20万円）



写真-1 ご挨拶される金子恭之国土交通副大臣



写真-2 〈最優秀賞〉鹿島カットアンドダウン工法
中 央：金子 恭之（国土交通副大臣）

写真左：伊藤 仁（鹿島建設株式会社 執行役員）

写真右：大塚 繁充（鹿島建設株式会社 建築管理本部建築技術部）



写真-3 〈最優秀賞〉キーエレメント工法

中 央：金子 恭之（国土交通副大臣）

写真左：岡部 憲一（五洋建設株式会社 常務執行役員）

写真右：段塚 隆雄（五洋建設株式会社 九州支店 土木部）

【 3. 第3回ものづくり日本大賞 】

3.1 「国土技術開発賞」と「ものづくり日本大賞」の関係

「ものづくり日本大賞」は、我が国の産業・文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に大きく貢献してきた「ものづくり」を着実に継承し、さらに発展させていくことを目的として、平成16年度に政府が創設した表彰制度である。

最先端の技術から伝統的・文化的な「技」まで幅広い分野において中核を担う中堅世代のうち、特に優秀と認められる人材（ものづくり名人）に対して2年に1回、内閣総理大臣が表彰を行う。

「ものづくり日本大賞」には「(1) 産業・社会を支えるものづくり※」、「(2) 文化を支えるものづくり」、「(3) ものづくりを支える高度な技能」の3分野があり、国土技術開発賞は、「(1) 産業・社会を支えるものづくり」の分野に該当する。

国土技術開発賞は、既に（平成11年度から）この分野において国土交通大臣表彰として事業展開していたことから、国土技術開発賞で国土交通大臣表彰である最優秀賞及び優秀賞を受賞した技術の技術開発者については、「ものづくり日本大賞」の候補者として取り扱うこととなった。

※ 「(1) 産業・社会を支えるものづくり」分野には、さらに「①製造・生産プロセス」、「②製品・技術開発」、「③伝統技術の応用」の3部門が設定されている。

3.2 第3回ものづくり日本大賞の受賞

第3回ものづくり日本大賞においては、その候補者として、今回（第11回）及び前回（第10回）の国土技術開発賞にて最優秀賞及び優秀賞に選ばれた計6件の技術（技術開発者）を、国土交通省が設置する第3回ものづくり日本大賞選考有識者会議へ推薦した。

同選考有識者会議で選考がなされ、内閣官房へ上申された結果、第11回の最優秀賞である「鹿島カットアンドダウント工法」が「製造・生産プロセス部門」において、また、第10回の最優秀賞である「太径曲線パイプルーフ工法」が「製品・技術開発部門」において、それぞれ受賞することとなった。

第3回ものづくり日本大賞の授与式は、7月15日に首相官邸で開催され、技術開発者は、麻生内閣総理大臣より直接表彰を受けた。（写真-4、5）

【 4. おわりに 】

国民生活を支える社会資本を効率かつ効果的に整備、維持していくためには、建設分野における技術開発が積極的に行われる環境づくりが不可欠である。

国土技術開発賞における顕彰が、産学官民の建設技術者による常日頃からの技術開発、またその活用促進を積極的に行える環境づくりの一助となれば幸いであり、今回受賞した技術は、より効率的なインフラの整備や脆弱な国土の管理を行なうためには欠かすことのできない新技術であるものと確信している。

JICEとしては、引き続き、優れた新技術の活用促進に向けた情報提供をはじめ、建設分野が創意工夫を必要とする知的刺激に満ちた魅力ある分野であることなど、建設技術の社会的重要性を広く一般に理解して頂くよう努めて参りたい。



写真-4 第3回ものづくり日本大賞授与式
麻生首相と鹿島カットアンドダウント工法の技術開発者



写真-5 第3回ものづくり日本大賞授与式
麻生首相と太径曲線パイプルーフ工法の技術開発者